

# 自然史資料を どうのこすか？ -在野の私たちにできること

標本、写真、フィールドノート、図鑑、本、雑誌、手紙・・・博物学や自然史関係の研究・調査をしていると否応無しに様々な“資料”が手元に増えていきます。しかし、断捨離や「こまめメソッド」がもてはやされる現在、自然史資料も例外ではありません。なにをどう残しどう処分するのかを考える必要があります。最近の実例をあげつつ、実践的な方法のいくつかを紹介します。



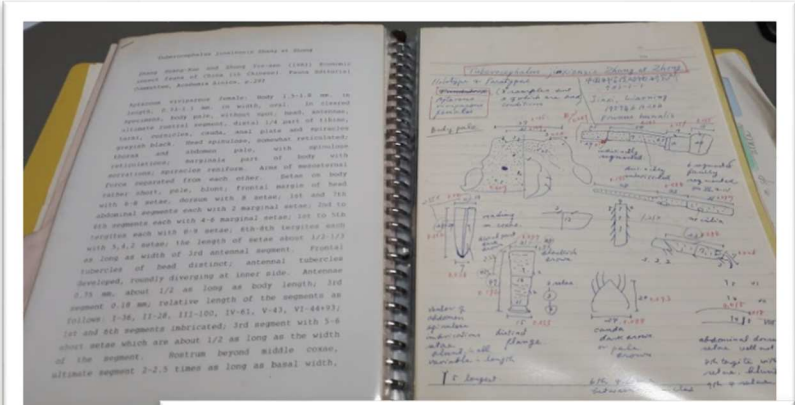
**日時** 2019年  
**5月28日(火)**  
**19:00~20:30**

**場所** 愛媛大学 松山市文京町3番  
愛大ミュージアム (ミュージアムがある建物)  
1F ミュージアム多目的室

**対象** 自然に関心がある人 30人

**参加費** 200円

◆**話題提供 吉富 博之 さん**  
1972年生まれ。1997年～2009年まで環境調査会社にて調査員としてフィールドに出る。2009年から愛媛大学ミュージアム准教授。自慢は全国47都道府県全てで採集を行ったこと。



**【お申し込み】** お名前、電話番号、e-mailアドレス(お持ちの場合)を明記の上、下記連絡先までお申し込みください。(個人情報は適正に管理し、当事業関係のご連絡にのみ使用します。)

**NPO 森からつづく道**  
(松山市鉄砲町1-7)  
e-mail: info@morimichi.org  
FAX: 089-992-9152

主催: NPO 森からつづく道  
後援: 愛媛大学ミュージアム

